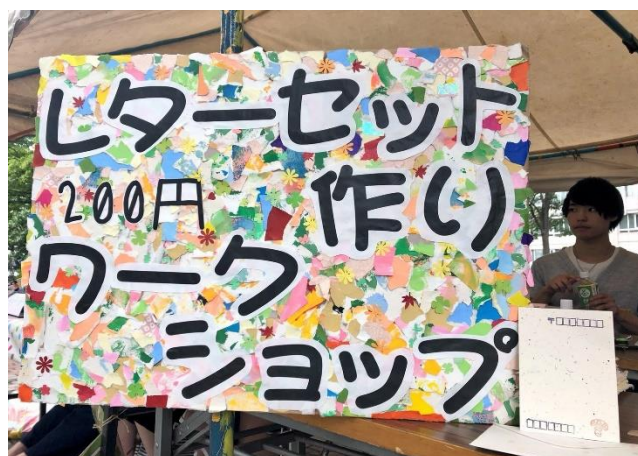


雪嶺会 様

本年度の北海道大学 国際協力学生団体 Frato に対して学生活動助成でのご支援、誠にありがとうございました。皆様のご支援を受けまして、私たちがどのような活度をしたか、ご報告させていただきます。

私たちの団体は、「国際協力」をすること、世界のあらゆる問題を多くン学生、教職員、市民の方々に知っていただくことを目的とし、本年度よりボランティア局の一サークルとして立ち上がりました。青年海外協力隊や国際問題に興味がある学生、ボランティアが好きな学生、開発途上国の方々と交流したい学生たちとともに、国際効力機構 JICA 北海道や NGO 団体の方々の主催するイベントやボランティアに参加したり、本学の大学祭で「UNHCR 難民映画祭」を開催したりしました。

5 月に大通公園 10 丁目で開催された「フェアトレードフェスタ 2018 in さっぽろ」では、私たちと同様に国際協力をする他大学（北海道大学、天使大学、酪農学園大学等）のサークルや社会福祉法人草の実会の方々、個人で参加されている方々とともに、再生紙を使用したレターセット作りやインドのビーズを使用したアクセサリ作りのワークショップを来場者の方に行う、というボランティアに参加しました。小さい子どもからご高齢の方まで、幅広い年齢層の市民の方々に来場していただき、ワークショップを体験していただきました。その過程で、対象者に合った話し方や言葉遣いなどのコミュニケーション技法を学ぶとともに、フェアトレード・エコ商品がどのように作られているか（生産者の生活、その国の内政など）を知ることができた。



7月には顧問である小川直久先生が企画した、「瀬谷ルミ子氏講演会 世界の紛争とテロの防ぎ方～紛争地での取り組みと日本からできること～」の会場ボランティアをしました。この講演会では、私たちのサークルのメインとしている国際協力について、紛争やテロの観点から学ぶことができました。またここでも、会場案内やパンフレット配りなどで多くの市民の方と関わることができました。



9月には本学大学祭にて、「UNHCR 難民難民映画祭-学校パートナーズ 夢を追いかけて続けた女性たち」を開催しました。この難民映画祭は、学生や教職員、市民の方々に、紛争や迫害により住み慣れた故郷を追われている人々（難民）の一人ひとりの物語を知ってもらうことを目的としました。同時に、この難民問題を「どこか遠くの異国で起こっている出来事」ではなく、「共に生き、支え合う仲間が起こっている出来事」だと捉えてほしいという思いもあります。実際に学生、市民の方々からは、「パレスチナ難民の生活が少しでも分かったような気がします。」「辛く苦しいキャンプ生活から自立していく女性の方々に勇気を頂きました。」「難民の生活は国籍を持つものと比べて苦しいものであることがわかりました。彼ら、彼女らのためになることをしたいと感じました。」との感想をいただきました。また、また、「世界雑貨市」と称し、フェアトレード商品の販売をしました。フェアトレード商品の購入は、生産者にお金として支援できる一番簡単な国際協力だと考えているため、多くの大学祭来場者に商品を購入していただけたので、サークルとしてのメインの目標を達成できたと思います。

いただいた活動助成金は、この難民映画祭の映画使用料として使用しました。





今後は、国際協力機構 JICA 北海道さんの、研修員（国づくりの担い手となる開発途上国の人材）の方々が日本文化を体験するツアーに参加させていただき、実際に外国人と関われる機会を増やすなど、直接的な国際協力もしていく予定です。

本年度に引き続き、雪嶺会様には今後ともご支援を賜り、国際協力学生団体 Frato の活動を温かく見守っていただければ幸いです。

北海道科学大学 国際協力学生団体 Frato 代表  
看護学科 2 年 鴻野 蒼

